

II. 岩谷石切場海岸部をめぐる調査の取り組み

(1) 戦前の調査の取り組み

明治期以降に岩谷石切場を文化財的な観点から言及したものは、大正10年（1921）の『小豆郡誌』である。⁽¹⁾しかし「慶長4年豊臣秀頼大阪城ヲ副築スルに際シテ亦本郡ノ石材ヲ徵用セシト」と言及されているように、豊臣大坂城に起因する採石であると理解されている。大阪城石垣自体が1959年の「大坂城総合学術調査」によって、現存の石垣がすべて徳川幕府による再築であると判明していることから、当時の認識としては当然であろう。小豆島では豊臣大坂城の石切場であることが、石切場を歴史的な場となし、地域の由緒を主張する根拠となつた。⁽²⁾

小豆島島内の石切場が体系的に整理されたのは、昭和3年（1928）の香川県史蹟名勝天然紀念物調査会による『史蹟名勝天然記念物調査報告』3号である。小豆島島内に所在する主な大坂城石垣の石切場を整理し、写真を付けたうえで解説している。岩谷石切場については、略図を添えて丁場の分布を整理している。⁽³⁾

(2) 戦後の文化財保護行政における取り組み

戦後の文化財保護行政における管理においては、1965～1974年の開発による破壊に直面することで、文化財保護法による学術的調査を経て、小豆島の石切場が保護されることとなつた。岩谷石切場は、1970年に県指定史跡「大阪城用残石群」として指定され、1972年に国指定史跡となつた。⁽⁴⁾1974年には台風による集中豪雨によって土砂崩れが発生し復旧事業が行われた。1978年度に分布調査が行われ、すべての石材についてリスト化された。リストでは「海中ニアリ」と記載された石材を確認できるが、場所や石材法量は不明である。海中に石材を確認したもののが詳細調査に手が回らなかつたと推測される。文化庁が1989年から3か年で実施した調査研究「水中遺跡保存方法の検討」の報告書内の日本の水中遺跡地名表においては、岩谷石切場の水中の残石を水中遺跡として記載している。

(3) 研究機関・大学等における取り組み

2010年9月4日、2010年度海の文化遺産総合調査プロジェクトとしてNPO法人水中考古学研究所が岩谷石切場の海岸部を踏査した。⁽⁵⁾波打ち際に石材を確認している。

2012年、同志社大学文化遺産情報科学研究センターが岩谷石切場の天狗岩磯丁場を調査した。⁽⁶⁾予備調査を含め、2012年7月12日～14日、8月28日～9月3日、9月10日～11日に実施した。海中の石材分布を調べるためにシュノーケリングおよびスクーバダイビングにて調査した。地元で大坂城石垣石の積み出しに使われたと伝承されている「かもめ石」を実測している。この調査には、高田祐一・福家恭・広瀬侑紀も参画している。

2013年、科学研究費「近世における石材生産と運搬に関する広領域史的情報の資源化と実証的研究」（研究課題25884098）によって、高田が岩谷石切場海岸部の踏査および関連

資料調査を実施した。⁽⁷⁾

2014年～2016年、科学研究費「東瀬戸内海島嶼部における大坂城築城石丁場と石材輸送水運に関する研究」(研究課題 26370781)により橋詰茂が小豆島全域の海岸を対象に分布調査を実施した。⁽⁸⁾ 岩谷石切場においては、天狗岩磯丁場・八人石丁場海岸部のおよその石材分布を把握した。報告書が2019年3月に刊行される予定である。

2017年、2017年度公益財団法人福武財団瀬戸内海文化研究・活動支援助成(調査・研究助成)「小豆島における巨石海運技術の研究」(研究代表者:高田祐一、共同研究者:藤田精・福家恭・広瀬侑紀・鈴木知怜)および奈良文化財研究所埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室による水中計測方法の試行として、八人石丁場海岸部にて水中ソナー・写真計測(SfM-MVS)による調査を実施した。⁽⁹⁾

- (1)『小豆郡誌』香川県小豆郡役所、1921。
- (2)高田祐一「小豆島岩谷石切場における保護意識の形成過程」『遺跡学研究』11号、2014。
- (3)『史蹟名勝天然記念物調査報告』3号、香川県史蹟名勝天然記念物調査会、1928。
- (4)『史跡大坂城石垣石切丁場跡保存管理計画報告書』内海町教育委員会、1979。
- (5)NPO法人水中考古学研究所「2010年度瀬戸内海地区資料調査報告」『水中考古学研究』5号、アジア水中考古学研究所、2011年4月30日。
- (6)高田祐一・茂木孝太郎・津村宏臣「小豆島東海岸天狗岩磯丁場の石材積み出し遺構」『小豆島石の文化シンポジウム資料集—地球の恵み—海と大地と人々が創造した瀬戸内の石文化』小豆島町企画財政課、2012。
- (7)<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-25884098/>
- (8)<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-26370781/>
- (9)高田祐一・福家恭・山口欧志・金田明大「大坂城石垣石丁場跡における水中残石の調査」『奈良文化財研究所紀要』2018、2018年6月末刊行予定。